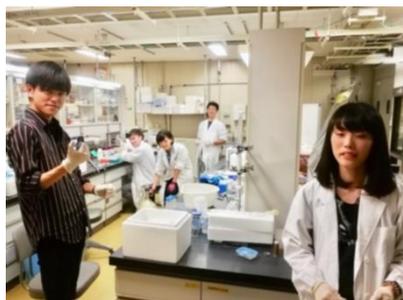


## News

### 応用生命化学実験Ⅱ

5月8日(水)から5月29日(水)までの約3週間にわたり、学部3回生が受講する応用生命化学実験Ⅱにおいて、食品・栄養化学研究分野担当の実験が開講された。毎年様々な食品を用いて、食品成分の抗アレルギー効果の検証を行っていたのだが、今年からは内容が大幅に変わり、食品が肝臓の薬物代謝酵素に及ぼす影響の検証を行った。今年の実験では、食品素材としてわさび、ハツカダイコン、ブロッコリーを用いた。野菜といえば緑色のものが多く、例年食品抽出物は緑色のものばかりになってしまっていたが、今年はオレンジ、ピンク、緑ととてもカラフルだった。



学生実験のTAたち。左から順に植野晃(B4)、清水遥河(M1)、石戸萌(B4)、竹本孝多(B4)、榎田麻里(M1)。これは、B3がマウスの解剖を行い抽出した肝臓を分画している途中での撮影。

実験では、培養細胞と実験動物を用いてそれぞれ評価を行うのだが、B3にとってはどちらも初めて使うもののため、非常に戸惑っている様子を感じられた。実験動物として用いたマウスは、初日では恐々と触れているようであったが、投与最終日にはすっかり慣れた様子で扱っていたのが印象的だ

った。また、肝臓の酵素活性の測定を行った際には、自分たちで積極的にうまく測定できなかった原因を考え、何度も測定のやり直しをするなど、実験に真剣に取り組んでくれた。この3週間の学生実験の中で、少しでも本研究室に興味を持ってもらえたらと思う。



ポスターを用いて実験内容の説明を行う石戸(B4)。実験内容変更のため、今年はポスターも一新した。



授業後に、質問に答える植野(左、B4)。黒板を使った分かりやすい説明にB3から大人気だった。

### 第73回日本栄養・食糧学会シンポジウム

#### 「メダカを用いた食品・医薬品の機能性評価基盤の構築」

5月19日(日)、静岡県立大学で第73回日本栄養・食糧学会シンポジウムが開催された。本研究室からは、藍原祥子助教授が参加され、「小型魚類からヒトへ。味覚受容システムの解明」という内容で口頭発表を行った。後日、発表時の写真をいただいたのでここで紹介する。



口頭発表を行う藍原助教授。

### 4月誕生会

5月21日(火)、少し遅めの4月誕生会が行われた。4月は、藍原助教、森田(M2)、植野(B4)とコードジボワールからの留学生であるEpiphanieさんが誕生日を迎えた。1年に12ヶ月もある中、今年の研究室メンバーの約4分の1の人が4月生まれという事に驚いた。



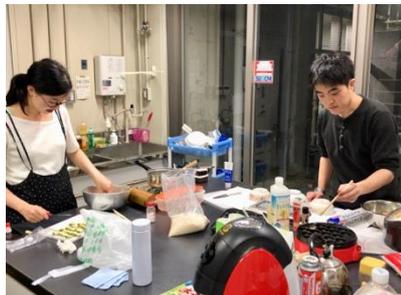
4月誕生日を迎えた3人。左から植野(B4)、藍原助教、森田(M2)。残念ながら、Epiphanieさんは不在・・・。

お誕生日おめでとうございます  
素敵な1年になりますように！

### そら豆パーティー

5月21日(火)、水野雅史教授のお知り合いから送っていただいたそら豆を食す会が開催された。B4とM1は翌日の応用生命化学実験Ⅱの準備に追われていたため、お忙しい中M2の方々がそら豆の調理をしてくださり、実験準備の合間に手作りのそら豆料理を食べるといってすごく贅沢なことをさせてもらった。そら豆の塩茹でにそら豆のパスタ、チーズそら豆

など種類が豊富でどれもとても美味しかった。ごちそうさまでした!



そら豆パーティーの準備をする森田温子(左、M2)と田代純輝(右、M2)。写真には写っていないが、丸岡祐子(M2)の3人で、そら豆料理をたくさん作ってくれた。



そら豆パーティーの様子。机の上がごちそうでいっぱい。左から、丸岡(M2)、石戸(B4)、橋本堂史准教授、竹本(B4)。

### 論文・学会発表

学会発表)  
第73回日本栄養・食糧学会シンポジウム  
「メダカを用いた食品・医薬品の機能性評価基盤の構築」  
静岡県立大学  
2019年5月19日(日)

○藍原祥子「小型魚類からヒトへ。味覚受容システムの解明」

### フリートーク

今月のフリートーク担当は森田(M2)。本を読むのが好きでたくさん本を読んでいるらしく、今回は「森田オススメの東野圭吾作品」を紹介してくれる。

### 1位:「どちらかが彼女を殺した」



この物語は最後まで犯人が誰かが明言されていないので読者自身が推理して犯人を特定しなければいけないところが最も面白いです! 何より、文庫化するにあたり本文中の一文を故意的に消したことでより一層、殺人犯の特定が難しくなっています!

### 2位:「容疑者 x の献身」



映画化もされた有名な作品ですが、私は映画を観る前に小説を読んで号泣しました。自分を犠牲にしてまで守りたいと思う愛の深さは何度読んでも感動します。

### 3位:「疾風ロンド」



最後の最後までハラハラドキドキが止まらない作品です! 一度読み始めるとページをめくる手が止まりませんでした。オチが最高に良いなと思いました!!

### 編集後記

5月には応用生命化学実験Ⅱがあり、本当に毎日が慌ただしく、あっという間に過ぎ去りました。自分がM1になって学生実験のTAを担当してみると想像の何倍も大変で改めて先輩方の偉大さを感じました。来月以降も気を抜かず頑張っていきたいです。

榎田 麻里(M1)